

端末の多様化で活性化する 電子書籍ビジネス

高木利弘●株式会社クリエイション代表取締役

パソコン以外に携帯電話による販売サイトや専用端末が登場 芥川賞受賞作の『蹴りたい背中』がベストセラーに

2003年度の電子書籍の市場規模は、15億円～20億円であったと推定される。前年度（2002年度）の市場規模が推定約10億円であったのに対し、成長率は50～100%にも上った。

ダウンロード販売全体の伸びや携帯端末が好影響

このように電子書籍市場が大きく伸びた理由として挙げられるのは、まず第一に、ブロードバンド常時接続の普及によって、電子書籍に限らずコンテンツのダウンロード販売の市場全体が大きく伸びたことである。そして、第二に、携帯電話向けの電子書籍配信サイトが相次いで登場したことによって、市場拡大にはずみがついたこと、第三に、松下電器産業が「Σブック」を発売したことによって、新たに読書用端末市場が加わったことである。一方、2003年の出版の市場規模は、対前年比3.6%減の2兆2,278億円であった。1996年をピークに、7年連続で右肩下りのマイナス成長となった。

主な電子書籍販売サイトの概況

主な電子書籍販売サイトの概況は以下のとおりである。1995年にスタートした日本初の電子書籍販売サイト「電子書店パピレス」のタイトル数は19,380点（2004年5月末現在）。2003年度の売上は対前年度比145%であった。

凸版印刷が運営する「Bitway-books」の2003年度の売上は対前年度比480%と驚異的な伸びを示した。タイトル数は「Bitway-books」が約5,000点で、PDA向け姉妹サイト「@irBitway」が約4,000点（2004年4月現在）である。

大日本印刷が運営する「Webの書齋」の2003年度の売上は対前年度比187%であった。電子書籍全タイトルに対して「関連書籍」をリンクさせ、「関連書籍」の紹介、および購入サービスを行っているのが特徴である。

シャープが運営する「Space Town ブックス」の2003年度の売上は対前年度比130%であった。毎月の新刊タイトル数は250、毎月のダウンロード数は約20,000であった。

「PDABOOK.JP」は、ミュージック・シーオー・ジェービー（MCJ）が運営する電子書籍販売サイトで、2003年度の売上は対前年度比150%、毎月の新刊タイトル数は280、毎月のダウンロード数は15,000であった。

「楽天ダウンロード」は楽天が運営する電子書籍販売サイトで、2003年度の売上は対前年度比160%、毎月の新刊タ

イトル数は400～500点、毎月のダウンロード数は30,000であった。楽天ダウンロードは、アニメのデジタル商品やPCソフト、短編映画、音楽ビデオクリップなども含めた総合ダウンロードサイトを目標しているのが特徴である。

「M-stage book」は、NTTドコモが運営する電子書籍販売サイトで、P-in シリーズなどのドコモのPHSやFOMA経由で電子書籍を購入できるようになっている。毎月の新刊タイトル数は150で、毎月のダウンロード数は1,500である。

「電子文庫パブリ」は、電子文庫出版社会が運営する電子書籍販売サイトである。タイトル数は、5,531（2004年5月末現在）。参加出版社は、学習研究社、角川書店、講談社、光文社、集英社、祥伝社、新潮社、筑摩書房、中央公論新社、徳間書店、双葉社、文藝春秋の12社である。

「10DaysBook」は、イーブックイニシアティブジャパンが運営する電子書籍販売サイトである。マンガに関しては日本一のタイトル数を誇っている。ファイル形式は、独自に開発した「ebi.jブックリーダー」で閲覧するeBOOKが中心で、PCおよびΣブックでの閲覧ができる。タイトル数は、5,328（2004年5月末現在）である。

ベストセラーは『蹴りたい背中』

2003年度のベストセラー電子書籍には、『蹴りたい背中』（綿矢りさ／河出書房新社）、『プロジェクトX 挑戦者たち』（NHKプロジェクトX制作班／NHK出版）、『ネットだから話せるOLたちのSEXリアル・レポート』（Caz編集部／扶桑社）、『鬼平犯科帳』（文芸春秋／池波正太郎）、『「超」整理法』シリーズ（野口悠紀雄／中央公論新社）、『時事問題の基礎知識2003』（ダイヤモンド社）、『暁の天使たち』シリーズ（茅田砂胡／中央公論新社）、『伝染るんです』シリーズ（吉田戦車／小学館）、『採用の超プロが教える できる人できない人』（サンマーク出版）、『制服日和 桜木睦子写真集』（会田我路／イースト・プレス）、『SARS～その予防と基礎知識』（八木隆／インプレス）などがある。

とりわけ『蹴りたい背中』（綿矢りさ／河出書房新社）は、書籍と電子書籍を同時発売したことや、芥川賞受賞後に書籍が品薄になる状況が生じたことなどが功を奏して、いくつもの電子書籍販売サイトで軒並み売上No.1を記録した。『蹴りたい背中』は、（当然のことながら）電子書籍市場を牽引

していくのはやはりコンテンツの魅力であるということ改めて証明したのであった。

携帯からヒットした『Deep Love』

携帯電話向け電子書籍販売サイトが出揃ったのも、2003年度の大きな特徴である。時系列にそって整理すると、日本で一番最初の携帯電話向け電子書籍販売サイトは「新潮ケータイ文庫」で、オープンしたのは2000年2月、EZweb公式サイトとしてであった。同年3月にVodafone live! (旧J-フォンのJ-スカイ) 公式サイトとしてオープン。そして、この「新潮ケータイ文庫」のiモード公式サイトがオープンしたのが、2003年4月であった。会員数は、3キャリア合わせて3万人弱で、採算がとれるようになったとともに、「新潮ケータイ文庫」で連載した小説を単行本化して販売するというメディアミックスも軌道に乗ってきているという。

6月には「ケータイ電子書店SpaceTownボックス」(Vodafone live!) と「快読!ケータイBookクラブ」(EZweb) がオープン。8月には「文庫読み放題」(iモード)、10月には「電子書店パピレス携帯版」(EZweb) がオープンした。11月には、KDDI/auがパケット料金定額制のCDMA 1X WINのサービスを開始したが、それに合わせてEZweb WIN版の「ケータイ電子書店SpaceTownボックス」、「Handyブックショップ」がオープン。そして、同時にスタートしたコンテン

ツ自動配信サービスEZチャンネル向けに「MCJニュースチャンネル」がスタートした。2004年に入って、2月に「どこでも読書」(EZweb WIN) と「電子書店パピレス携帯版」(iモード) がオープンし、3月には「ケータイ読書館SpaceTownボックス」(iモード) がオープンした。

なお、『Deep Love』シリーズ (Yoshi/スターツ出版) のように、携帯電話向けの電子書籍が書籍化され、合計180万部を販売するベストセラーとなり、映画化されるという社会現象も発生した。

松下電器産業とソニーが読書用端末を発表したのも、2003年度の大きな話題であった。松下電器産業は、2004年2月に読書用端末「Σブック」の発売を開始。そして、松下電器産業、東芝、イーブックイニシアティブジャパン、勁草書房など15社が発起人となって「電子書籍ビジネスコンソーシアム」を設立した。一方、ソニーは読書用端末「LIBRIe (リブリエ)」を発表するとともに、ソニー、講談社、新潮社、大日本印刷、凸版印刷など15社が共同で「株式会社パブリッシングリンク」を設立した。

以上のように、2003年度は電子書籍市場が対前年度比50～100%もの急成長を遂げるとともに、電子書籍を閲覧するハードウェアが多様化、電子書籍事業者間の競争が激化した年であったといえる。

資料6-3-4 主な電子書籍販売サイトの売上の伸び

サイト名	売上 (対前年度比)	タイトル数	新刊/月	ダウンロード数/月	特徴
電子書店パピレス	145%	19,380	400	42,000	日本初、日本最大の電子書籍販売サイト
Bitway-books	480%	9,000	200～300	—	凸版印刷が運営する電子書籍販売サイト
ウェブの書齋	187%	—	120	—	大日本印刷が運営する電子書籍販売サイト
Space Town ボックス	130%	6,684	250	20,000	シャープが運営するPDA向け電子書籍販売サイト
PDABOOK.JP	150%	—	250	15,000	MCJが運営するPDA向け電子書籍販売サイト
楽天ダウンロード	160%	—	400～500	30,000	楽天市場のコンテンツ販売サイト・独自の「楽天ダウンロード」
M-stage book	—	—	150	1,500	NTTドコモの電子本屋さん

※2004年4月にヒアリングした結果

資料6-3-5 携帯電話向け電子書籍販売サイト

年	月	携帯電話向け電子書籍販売サイト	運営会社	iモード	EZweb	Vodafone live!
2000年	2月	新潮ケータイ文庫 (V)	新潮社			○
	3月	新潮ケータイ文庫 (E)	新潮社		○	
2003年	4月	新潮ケータイ文庫 (i)	新潮社	○		
	6月	ケータイ電子書店 SpaceTown ボックス (V)	シャープ			○
	6月	快読! ケータイBookクラブ (E)	MCJ		○	
	8月	文庫読み放題 (i)	角川デジックス	○		
	10月	電子書店パピレス/携帯版 (E)	パピレス			
	11月	ケータイ電子書店 SpaceTown ボックス (E)	シャープ		○WIN	
	11月	MCJニュースチャンネル (E)	MCJ		EZチャンネル	
	11月	凸版印刷/Handyブックショップ (E)	凸版印刷		○WIN	
2004年	2月	どこでも読書 (E)	MCJ		○WIN	
	2月	電子書店パピレス/携帯版 (i)	パピレス	○		
	3月	ケータイ読書館SpaceTownボックス (i)	シャープ	○		

出所 インプレス「電子書籍ビジネス調査報告書」



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、データ、URL、名称など）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真・図の作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D（初期は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp